



## 水野さんに対するパワハラの実態 その④

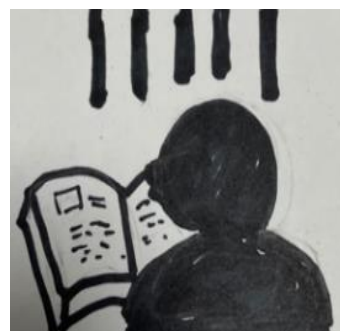
### 会社に従順にさせる？ 感想文まで強要！

### 不安はさらに膨らみ追い詰められる！

対策レポートを井出助役から言われるがままに書き直し提出した水野さんに対して、7 月に入ると今度は池田総務科長が出てきます。これで会社の態度が変わるのと思いきや、一瞬にしてその期待は消えます。

池田総務科長は水野さんに、「喪に服せ」と言いだします。さらに、水野さんに、一冊の本を渡し、感想文を書くように指示してきました。

その本は、「P L 学園最強時代 あるキャッチャーの人生を追って」という分厚いものでした。内容は、J R 東海硬式野球部に所属していた社員が、難病に侵され、亡くなるまでをライターが追ったものでしたが、その大半が「J R 東海には多大な配慮をしてもらって、こんなに良い会社はない」ということと、家族愛に支えられて



いたことに割かれていました。水野さんは、会社から日勤教育を強制され、密室でずっとパワハラそのものの対応をされてきたので、J R 東海が良い会社だと延々と述べられても、全く頭に入らず、ただただ苦痛だけでした。



また、一日で読み終わられる量ではないので、家に持ち帰って続きを読むように指示されました。家に帰ってまで J R 東海が良い会社という論調の本は、正直読みたくありませんでした。水野さんはますます重たい気持ちになっていきます。

この日から、先月まで全く出て来なかった池田総務科長が対応してきたので、先月までの「日勤教育」と何か意味が異なっているのではないかと水野さんは思うようになりました。不安は絶頂期に達してきます。何故？なぜ？なんで？？水野さんは悩み苦しみます。